

大豆特報

梅雨期間の降水に備え、適期の培土作業や除草作業とあわせ、排水対策を徹底し、大豆の収量及び品質向上に努めましょう。

1 培土 ～排水の促進、根域の拡大、雑草の抑制、倒伏防止に効果～

【作業のポイント】

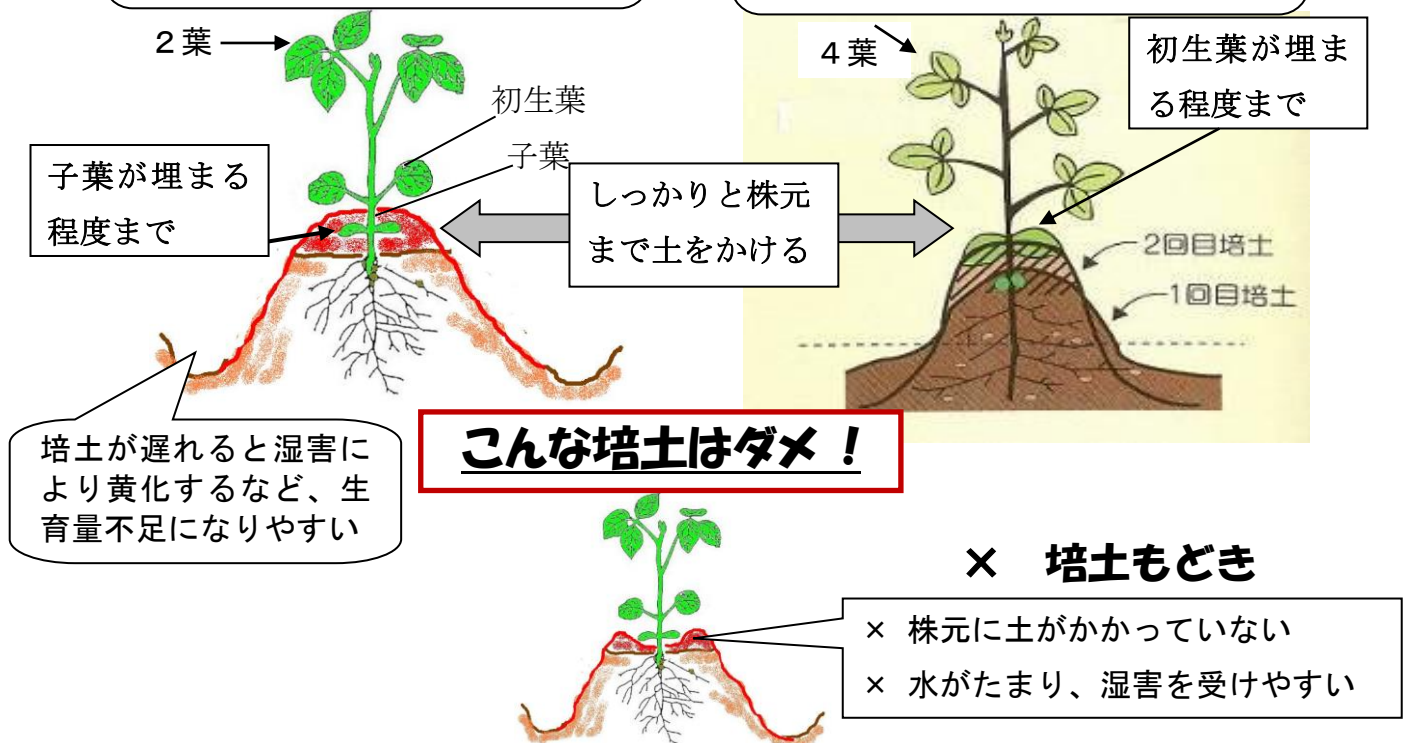
- ① 培土作業は適期を逃さずに行いましょう。
- ② ほ場が乾いている時に作業をしましょう。
- ③ 株元までしっかり土を寄せましょう。

1回目培土

時期：本葉2～3葉期の頃
 目安：は種後20～25日頃

2回目培土

時期：本葉4～5葉期の頃
 目安：は種後30～35日頃



生育促進・収量増加のため、培土は遅れず実施しましょう。

2 排水対策 ～根域の拡大のため、必ず行う～

- 培土後にできた溝は、速やかに額縁排水溝や深く掘り下げた排水口と連結し、溝に水がたまらないようにしましょう。
- 降雨後に、溝の連結や排水溝の崩れた部分の手直しを行い、雨水が停滞しないように点検・補修しましょう。

3 雑草防除 ～草種にあわせて、適期に除草剤を散布する～

【イネ科雑草】

除草剤名	使用方法 (10a 当たり)	使用回数	使用方法	使用時期
ナブ乳剤	・薬剤 150～200 ml 希釈水量 100～150ℓ	1回	全面散布	イネ科雑草 3～5 葉期 (スズメカビエラを除く) 但し、収穫 30 日前まで
ポルトフロアブル	・薬剤 200～300 ml 希釈水量 50～100ℓ	2回以内	全面散布	イネ科雑草 3～10 葉期 (スズメカビエラを除く) 但し、収穫 30 日前まで

- ・イネ科雑草のみを選択的に枯死させます。
- ・茎葉処理剤なので、イネ科雑草が生え揃った初期の段階に遅れず散布しましょう。

【広葉雑草】

除草剤名	使用方法 (10a 当たり)	使用回数	使用方法	使用時期
大豆バサグラン液剤	・薬剤 100～150 ml 希釈水量 100ℓ	1回	全面散布	大豆 2 葉期～開花前 (雑草の生育初期～6 葉期) 但し、収穫 45 日前まで
	・薬剤 300～500 ml 希釈水量 100ℓ		畦間処理※	大豆生育期 (雑草の生育初期～6 葉期) 但し、収穫 45 日前まで

- ・散布時期の目安は、大豆のは種後 20～25 日頃 (大豆の本葉 2～3 葉期) です。
- ・イネ科雑草には、効果はありません。

【一年生雑草】

除草剤名	使用方法 (10a 当たり)	使用回数	使用方法	使用時期
パワーガイザー液剤	・薬剤 200～300 ml 希釈水量 100ℓ	1回	全面散布	大豆出芽揃期～3 葉期 (雑草発生始期～2 葉期)
			畦間処理※	大豆生育期 (雑草発生揃期～2 葉期) 但し、収穫 30 日前まで

- ・パワーガイザー液剤は、水稻等に薬害が出るため、ドリフト飛散に十分注意して散布しましょう。

【非選択性除草剤】 ※畦間処理は、つり下げノズルを使用し、大豆の本葉にはかからないよう注意しましょう。

除草剤名	使用方法 (10a 当たり)	使用回数	使用方法	使用時期
バスタ液剤	・薬剤 300～500 ml 希釈水量 100～150ℓ	3回以内	畦間処理※	雑草生育期 (株間処理:本葉 5 葉期以降) 但し、収穫 28 日前まで
ザクサ液剤				雑草生育期 但し、収穫 28 日前まで

- ・バスタ液剤やザクサ液剤は雑草が生え揃った初期の段階に遅れず散布しましょう。また、非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分に注意して散布しましょう。
- ・バスタ液剤とザクサ液剤を合わせた総使用回数は 3 回以内です。

★JA みな穂では営農情報を配信しています。
 ・営農メール: 水稻栽培情報、気象・災害情報
 ・LINE: 稲作管理特報などの各種特報
 ※右の QR コードを読み込み、案内に沿って
 手続きして下さい。

営農
メール



LINE

